

チョンブンマラソンとつくばマラソンそして スポーツツーリズムへの展開

山田幸雄¹⁾

Thai health Chombueng marathon, Tsukuba marathon and expansion to sports tourism.

Yukio YAMADA¹⁾

2018年9月20日から24日まで、タイ王国にあるムーバンチョンブンラチャパット大学を訪問した。目的は、マラソンや長距離、スポーツツーリズムに関する研究会に参加するためである(図1)。

つくばでマラソンといえば、つくばマラソンのことであり、筑波大学が主催者に名を連ねている。タイ王国で行われるチョンブンマラソンは、ムーバンチョンブンラチャパット大学が主催している。このように、つくばマラソンとチョンブンマラソンには、大学が主催者であるという共通点を持ち合わせている。

2年前からつくばマラソンとチョンブンマラソンの交流が始まった。きっかけを作ったのは、チュラロンコーン大学を卒業後、筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻を修了した教え子からの連絡であった。ムーバンチョンブンラチャパット大学に勤めるチュラロンコーン大学スポーツ科学関係者からの依頼であったという。

筑波大学やつくば市のつくばマラソン関係者から交流に関する理解を得ることができたた

め、ムーバンチョンブンラチャパット大学に交流を進めようという連絡をした。すると、学長、副学長が来筑することになった。これが、一昨年の夏頃のことである。ここから話が進み、その年(一昨年)の11月のつくばマラソンには、チョンブンマラソン関係者10名以上のボランティアが参加した。日本のボランティアに交じり、ペットボトル配りなど一生懸命サポートしていた。

昨年のつくばマラソンには、ボランティアだけでなく、チョンブンマラソン男女優勝者がつくばマラソンを走るために来筑した。日本のランナーと共に晩秋のつくばの地を気持ちよさそうに走ったのである。交流が始まった2回の大会には、必ず学長、副学長が帯同してきた。今回は永田学長や五十嵐市長との話し合いの場を設けることができ、さらなる交流を深めていこうという機運が高まった。

昨年のチョンブンマラソンには、つくば市の萩原武久理事(元体育センター長)と筑波大学で長くつくばマラソンに関わってきた鍋倉賢治教授の二人が招待されて、ムーバンチョンブン

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba



図1 オープニング



図2 講義の様子

ラチャパット大学を訪れた。王室関係者との懇談、マラソンでのスターター、学生をはじめとした多くのボランティアとの交流等、貴重な経験ができたということであった。特に、チョンブンマラソンとタイ王国の王室の関係が素晴らしく印象に残ったということであった。王室によってチョンブンマラソンの価値は飛躍的に高くなっていくことだろうと思われる。

このような経緯を踏まえて、ムーバンチョンブンラチャパット大学では、マラソン研究センターを立ち上げ、マラソン、長距離研究のメッカにしたいと考えている。可能であれば、日本から研究者を招聘したいとも考えているようである。このことが、今回の招待に繋がったのである。大森教授は、マラソンに関する研究会において、これまで自身が研究を重ねてこられた「マラソンにおける筋損傷とレースペース低下の関係」について、タイ王国内から集まった関係者に講義を行った。質疑応答を含め、マラソン研究センター立ち上げのための貴重な話であったと聞いている。タイ王国のマラソン、長距離関係者に研究の新たな視点を提供できたものとする。今後、マラソン研究センターの設立に向けて進んでいくことが期待できるのである。(図2)

ムーバンチョンブンは、バンコクから西北西の方向に120kmほど行ったところにあるのだから小さな町である。近くには、「戦場にかかる橋」という映画で有名なクワイ川に架かる橋がある。第2次世界大戦中に日本軍が作ったと



図3 ムエタイ学科を訪れて

される鉄橋である。今も一日数本の列車が走っている。

ムーバンチョンブンラチャパット大学は、大学の生き残りをかけた戦いを始めている。タイ王国でも人気が出てきたマラソンや長距離、走ることをテーマにした大学づくりを大学の柱の一つにしようとしている。その中心に据えるのがマラソン研究センターである。他のどこの大学もまねのできないことであり、チョンブンマラソンの蓄積があるからこそできるのである。

驚いたことに、もう一つ柱がある。ムエタイ(タイ式キックボクシング)の学科を作っているのである。ムエタイの現役を終えた若者を受け入れ、指導者への道やスポーツに関する勉強を通して社会への適応能力を高めていくリカレント教育を行っているのである。ムーバンチョンブンラチャパット大学は、少し変わった(いい意味での)ところのある貴重な大学なのである。(図3)

ムーバンチョンブンラチャパット大学は、マラソンだけでなく、自転車の授業も盛んに行っ

ている。郊外や周りの山林へのツーリング等、いわゆる、スポーツツーリズムを盛んに授業に取り入れている。自転車によるスポーツツーリズムは、台湾で盛んに行われている。特に、台湾の東海岸を通るルートは、風光明媚で人気があるルートであるといわれている。そこで、ムーバンチョンブンラチャパット大学に、国立台湾体育運動大学を紹介することにした。国立台湾体育運動大学からは、アスレチックディレクターの Yen-Hsiang, Huang 教授、国際担当の Po-Yu, Wang 准教授の2名が招待を受けた。

Huang 教授、Wang 准教授は、ムーバンチョンブンラチャパット大学関係者とスポーツツーリズムを通じた交流について議論を行った。その議論には、私も参加した。今後、両大学でスポーツツーリズムについて交流を深め、協力し



図4 台湾体育運動大学とムーバンチョンブンラチャパット大学の先生たち

ていくことで合意した。今度は、ムーバンチョンブンラチャパット大学が国立台湾体育運動大学を訪れることが約束された。さらなる交流の深まりにより、両国のスポーツツーリズムが発展していくことが期待される。(図4)